

令和 3 年 6 月 18 日現在

機関番号：33111

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13157

研究課題名（和文）剣道の稽古・修行で果たされる「人間形成」について 風景構成法を手掛かりとして

研究課題名（英文）Character cultivation through kendo practice and discipline -- A study with the landscape montage technique (LMT)

研究代表者

中島 郁子 (NAKAJIMA, FUMIKO)

新潟医療福祉大学・健康科学部・助教

研究者番号：30757729

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：剣道が目指す人間形成について検討するために、風景構成法の表現を手掛かりとして、剣道選手の人格特性に着目した。剣道選手の風景構成法には、競技者の描画に特異的に描かれるといわれてきた表現だけでなく、一般に小学生から高校生時期の転換期や、いわゆる成長途上に多くみられる特徴が表現されていた。剣道は、高い競技性ととも、生涯を通して稽古を継続することで自ら精進し続けることができる側面を持ち合わせており、そうした武道としての特性が剣道選手の人格特性に影響していることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

剣道選手の人格特性を明らかにした本研究成果は、剣道が目指す人間形成について実証的に理解するための一助となる。また、風景構成法を用いたことで、より剣道選手の精神的な内的世界の人格特性を理解することができる。武道が目指す人格像を明らかにすることは、後世へ残すべき伝統文化的な側面を広く伝えることになる。

研究成果の概要（英文）：To study how kendo serves its purpose of cultivating character, this research examined personality traits of kendo players through their expressions in the landscape montage technique (LMT) drawings. In addition to features that have been recognized as specific to athletes, many of the LMT works by kendo players had expressions that are characteristic of the teenage age where one goes through child-to-adult changes, as well as those commonly seen during the process of personality growth. While kendo is a quite competitive sport, as a martial art it also helps its practitioners foster their own growth through continuous training, or keiko, for a lifetime. The results of this study suggest that such aspect of kendo exerts an influence on personality traits of its players.

研究分野：スポーツ科学

キーワード：風景構成法 剣道 アスリート心性

1. 研究開始当初の背景

近年、特に「武道」と「人間形成」との関連が重視されてきている。平成 24 年度より施行されている中学校における武道の必修化が良い例である。武道に身を置く過程そのものが「人間形成の道」であり、子どもたちの教育において武道が担う役割を期待してのことだろう。それは、西洋の文化にはない、日本の武道特有の体験世界に関係している。

このように古来より重視され、現在に至っても注目される「人間形成」ではあるが、では、その目指すところは実際にどのような“人間”を想定しているのか。多くの文献にはどれも各人の個人的な主観によって書き残されてきたばかりで、武道の持つどのような稽古の在り方が、実際にどのような「人格」の成長に関連しているのか、共通に定義されたものはない。

武道の中でも、特に剣道は武道の特性を有している。相手に対する敬意を払い、ガッツポーズを良しとしないなど、礼儀を重んじることは代表的な例である。さらに、“勝つ”ことそのものよりも“一本”に対して、限りなく美しさを追求する(例えば、前林、2007)ことも武道特有の性質と言える。剣道の稽古過程と「人間形成」の関連を明確化し、その過程で獲得される人格像を明らかにすることは、日本人が大切にしてきた文化や、アイデンティティの在り方を永く後世に伝え、日本の武道の文化や特徴を日本が世界に対して、広く発信してゆく情報を提供することにつながってゆくと考える。

現在までに行われてきた、剣道選手の「性格」特徴を明らかにしようとした研究は、例えば剣道修練に対する意識・態度を調査したもの(角、1986)がある。学生剣道部員が求道的特性に対して、観念レベルで肯定する者が多く、現実的問題については肯定する者が少ないことが明らかにされている。しかし、こうした研究の多くは質問紙調査を中心としており、特徴的な性格傾向を分析しているのみで、「剣道」と「人格」または「人間形成」に関する検証は行われておらず、「パーソナリティ研究」のみにとどまっている。したがって、剣道の稽古のプロセスが目指す「人格像」への接近に関しては、これらのアプローチでは限界があると言わざるを得ない。中野ら(1971)も述べるように、さらに広い領域からの検討が必要であり、いわば、剣道選手の精神的な内界イメージへの接近は、性格特性の研究において残されてきた課題である。その課題に切り込むには、投影法を利用した臨床スポーツ心理学的なアプローチによって、剣道選手の体験世界への接近を試みることが有効であると考えた。

臨床スポーツ心理学とは、「対象との関係性を通して得られる(語られるあるいは表現される)ものを、内界の表現として受け止め、個の全体性に配慮しながら物語っていく」(中込、2013)学問である。そのスタンスには、臨床心理学的な考え方が深く関連している。いわば、臨床とスポーツを掛け合わせた革新的な研究分野である。

対象者の内界への理解を深めるために臨床スポーツ心理学的な接近方法で用いられる代表的な技法が投影法である。中でも風景構成法は、精神科医である中井久夫により 1970 年に発表され、佐々木が述べるように、描き手の内的テーマがあらわされ、それを読み取れる技法である(佐々木玲仁「風景構成法のしくみ」創元社、2012 年)。要するに、内的世界のイメージが表現されるため、独特な体験世界を生きる剣道選手の精神性を深く理解するためのアプローチとして適していると考えられる。本研究では、現代の剣道家を対象にその独特な修行の過程と、その内的な体験世界の特徴を詳細に調べることで、上記研究課題に取り組むことにした。

2. 研究の目的

本研究では、剣道選手の風景構成法(以下、LMT)を用いて、剣道の稽古を継続してきた剣道選手の人格特性を明らかにすることで、剣道が目指す人間形成のプロセスへの接近を試みることを目的とした。本研究では、以下の二つの検討課題を設定した。

- (1) 日本と海外の剣道選手の LMT を用いて、剣道選手の人格特性を検討する
- (2) 剣道選手の面接事例で表現された LMT から、心理的変容を検討する

3. 研究の方法

分析対象と資料については、以下の通りである。国内は全国大会入賞レベルのチームに所属する大学生剣道選手、海外は各国代表もしくは代表候補レベルの選手を対象に LMT を集団法で施行した。国内外それぞれから、剣道の実績が顕著で特徴的な選手の LMT を抽出し、質的に検討した。また、全国大会レベルのある剣道選手に継続的に心理サポートとして関わり、そこで定期的に描かれた LMT と逐語記録も分析の資料とした。風景構成法作品は、これまでに収集されたものも含んでいる。

4. 研究成果

- (1) 日本と海外の剣道選手の LMT を用いて、剣道選手の人格特性を検討する

日本人剣道選手の LMT

大学生で全国優勝しているこの選手の LMT は、画用紙を縦に使用し、川で空間を上下に区切っている。上の部分には、山しか描かれておらず、富士山型の屹立した山である。富士山型の山は、競技者に描かれやすいといわれている。強い線で川の岸を強調しており、川に誘目性のある構図となっている。下側の線に比べて明らかに太い線で区切られており、まさに空間がちがうという印象である。

川より下の世界では、川の流れと同じ方向に道や田や木が描かれ、一つの世界を構成する。その表現は破棄的ではない。ただ、全体で見ると、整合性という点では歪みを感じる。独自性が強く、他者に理解し難い印象を与えるかもしれない。さらに詳細に見てみると、道や田んぼなどが整然と並んでおり、手前の田んぼには、水路が引かれていて、老人が田の仕事をしているところと併せ、安心感がある。また、幼稚園の遠足と表した人の集団も、整然と並んでおり、一本線でまっすぐ描かれた道のシンプルさに木の並びも加えて、競技成績の高さにつながる表現である。

ただし、川の中にいるワニや、この絵の持つ不思議さ、もう一つの空間(世界)を持つということ等は、このアスリートのもつ不安定感に繋がるであろう。川の奥の富士山にもう一度注目すると、富士は元々霊山である。霊的な、神秘的な座を、この部分に投影しているようにも受け取ることができる。トップレベルのアスリートは、箱庭や風景構成法で、何処かに神秘的なアイテムを置いたり、あるいは、そういう場を描くことが多い。この富士山には、そのような意味も感じる。

また、この絵においても、家が半分しか描かれていない。近いが、やはり何処か、家庭や家族というものへの敷居の高さを、アスリートの絵からは感じ取れてしまうのである。

同時に、人が遠く小さい。これもこの人の特徴である。人間への遠さは、自分自身への距離が遠いということでもある。自分自身を遠ざけておいて(離人的に) 競技成績を上げると言うあり方は、中島(2006)がかつて指摘した通りであると考えられる。

一方で、人の描かれ方とは別に、何(誰)を描いたか、という点で考えると、幼稚園児とその引率の先生、田には老人ということである。人に対する興味関心の高さがうかがわれ、人懐っこさもみてとれる。

海外の剣道選手の LMT

世界大会に代表選手として数回出場している選手の LMT である。クレヨンで指で馴染ませながら、ぼかすように彩色されているところが特徴的で、このような彩色の表現は、日本人選手と比較して、海外の選手には多くみられた。単色を用いることが多い日本人選手は、一つの競技(剣道)を長く継続し、突き詰めてきたというような生き方を感じる一方で、型通りにはまっている印象も受ける。この選手に限らず、海外の選手は色が混じり合い、混色を用いて彩色される表現が多く、そもそも自国の文化ではない剣道を選択し、国を代表するレベルになるまで取り組んできたというその背景からも、色味豊かな生き方が想像される。この選手も、他の競技も継続しながら剣道の稽古も行っており、表現された世界からも鮮やかな色使いが感じられた。

山はふたつ描かれているが、どちらも全体は見えず、山頂もあいまいである。日本人選手の描画には、山頂まではっきりと描かれることが多く、一つの定まった目標が明確にあると受け取れる。この海外の選手の描画からは、まだまだ目標ははっきりとは定まっているわけではないが、しかし山の稜線には道や家も描かれており、山を登っていく過程はある程度、見えている状態ともいえる。

川の中には石が描かれているのは、この選手と同様である。水の流れを邪魔する存在、あるいは思い通りいかなさが表現されているとも受け取れる。稽古を通して、自分と向き合い続ける剣道の在り方と、エネルギーの流れの思い通りにいかない存在を感じさせる表現は、繋がるどころでもある。

人は立体的に描かれているが、頭部ははっきりとしない。顔部分はほとんど描かれていない。唯一描かれた動物は、顔までであるが、動物のみ彩色されていない。はっきりとした自己像は感じられない。まさに、自分探しの途中である。全体的には、構成がよくまとまっており、一つの世界として描かれている。剣道をしていることも、その他のことも、自分自身の内的世界の中にはまっている印象である。国内トップレベルの大学に進学しており、学業とともに剣道と両立していることから、それぞれが自身の中で矛盾することなく、豊かに幅広く人生を歩んでいる感じがみてとれる。

(2) 剣道選手の面接事例で表現された LMT から、心理的変容を検討する

10代の女子剣道選手である。「先生がなにを言っているのか分からない」という主訴から、面接がはじまった。監督からは、『すぐ泣くし、気持ちが弱く、どう接したらいいかわからない。試合に負けて泣いて、先日は、テストの成績が落ちて、また泣いて、練習できる様子もなくて、道場の外で1時間くらいずっと話を聞いていた。かなり不安定。しかし、他に中心になれる選手がいないので、しっかりしてもらわないとチームが成り立たない。』とのことだった。小学校低学年から剣道をはじめ、中学から剣道のために県外へ越境入学している。選手は監督について、技術的なことはわかりやすいが、自分にどうなってほしいと思っているのか、どんなイメージを

持っているのかがわからない。目指すイメージが欲しい、ということだったが、監督の持つイメージがわからないということだった。選手のしっかりと受け答えができる様子は、若い競技者らしくもあるが、ギラギラとしたアスリート特有の感じはみられない。母との関係は多数、語られるが、ほとんど語られない父親と、女性っばいという兄との家族関係を考えると、家庭内の男性像の希薄さと、「どう思っているのか分からない」と語る監督（男性）との関係は切り離さずに考えられる。

1枚目のLMTは「季節は4月、午前10時。山の高さは600m、田は芽が出た時期、青々としている。人は50歳女性、芽が出たのを喜んでいる。太陽と魚が追加で描かれている。絵のコメントとして、絵心がない、空に色を塗り忘れた。よくわからないスペースができた。」と書かれていた。道が途中で途切れており、進む先が定まらない。画用紙の中心になにも描かれず、彩色もされないスペースが残されており、ここに本人も着目しているが、選手の未成熟な部分としてみてとれる。川が大きく画用紙を上下に分割するように描かれている一方で、家や田は弱々しくも見える。人はスティックフィギュアで描かれており、自己との距離を感じさせる。

その後、剣道のことについて毎回、語られていく。監督とも話せるようになり、3か月ほど経つと、監督からは『クラスでもリーダーシップをとっており、なんでも1つ話せば10は伝わる。チームの大將を任せるのは、彼女しかいない』とまで言われるにいたる。最後の大会は圧倒的な勝利で優勝し、代表権を得て全国大会に出場する。最終的に全国3位の戦績を残す。本人としては、「やり切りました」と、満足の試合で引退する。2枚目のLMTは国体の出場が決まる直前、夏の時期である。画用紙に川が立つ表現となり、橋がかかる。右の世界も左の世界にも、それぞれのびのびと木々や花、山、田、家が描かれている。窮屈さや不自然なスペースはみられない。人はスティックフィギュアだが、魚しか描かれなかった1枚目に比較すると、ウサギと鳥があらわれた。移動範囲も視野も、広がっている。競技者としても成熟した部分がみてとれる。しかし、川が立つ表現は、成長途上の転換期（山中、1984）ともいわれており、まだ人間形成の途上にある選手の様子が感じられた。

（3）まとめ

本研究では、剣道選手の人格特性を風景構成法を用いて明らかにした。風景構成法から読み取れる各選手の特性は、アスリートらしさに加えて、未成熟さや成長途上ともいえる表現もあった。剣道は、その特性から、生涯稽古を通して自分自身と向き合い、向上を目指していける武道である。完成しないということも、剣道の目指す人間形成の一つの在り方なのではないだろうか。

本研究では質的に風景構成法の資料を分析するにとどまっている。今後さらに多くの選手や、他競技の選手の風景構成法を収集して、量的に比較検討することも必要と考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中島 郁子
2. 発表標題 ～アスリートを生きる～ 精神的に弱いと言われた選手との面接過程
3. 学会等名 日本心理臨床学会第38回秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島郁子
2. 発表標題 「試合で緊張する」と紹介されて来談した男子大学生の事例
3. 学会等名 日本臨床心理身体運動学会第20回記念大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島郁子、太田秀樹、堀内多恵
2. 発表標題 競技者に関わる臨床心理士の可能性（3） 身体を通した訴えを聴くこと
3. 学会等名 日本心理臨床学会第37回秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島郁子、堀内多恵、太田秀樹
2. 発表標題 競技者に関わる臨床心理士の可能性（4） アスリートを生きる
3. 学会等名 日本心理臨床学会第38回秋季大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 中島 登子、中島 郁子、高木 紀子、山本 幸代	4. 発行年 2021年
2. 出版社 木立の文庫	5. 総ページ数 152
3. 書名 素顔のアスリート	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------